

立川市スポーツ推進計画（平成27年度～31年度）の総括

Ⅰ 市民のライフステージに応じたスポーツの推進

(1) 子どものスポーツの推進	2
(2) 成人や子育て世代のスポーツの推進	5
(3) 高齢者のスポーツの推進	7
(4) 障害者のスポーツの推進	10

Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進

(5) 地域スポーツクラブの支援	13
(6) 地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進	15
(7) 地域におけるスポーツの推進	17
(8) ニュースポーツによるスポーツの推進	18
(9) 立川シティハーフマラソンの推進	20
(10) トップアスリートによるスポーツの推進	22

Ⅲ スポーツ環境の充実

(11) 既存スポーツ施設等の整備・充実	24
(12) 学校施設の有効活用	26
(13) 指導者の育成・確保	28
(14) 情報の提供	30
(15) 健康づくり事業の推進	31
(16) オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進	33

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅰ 市民のライフステージに応じたスポーツの推進					
施策名	(1) 子どものスポーツの推進					
1. 施策の概要						
幼児期に必要な身体能力の向上を図るとともに、子どもたちが興味を持って参加できる教室を開催する。						
【取組事項】						
① 未就学児とその保護者を対象に、幼児期に必要な身体能力の向上をはかるため、親子で参加する親子体操教室を引き続き実施します。						
② 普段スポーツ活動を行っていない子どもたちのきっかけづくりとなるよう、水泳・体操・ヒップホップ教室など、子どもたちが興味を持って参加できる教室を泉・柴崎両市民体育館で開催します。						
③ 現在行っているソフトテニスやランニングなど子どもを対象とした教室や、小学生クラブ交流大会など子どもの体力向上を目的とした事業を、地域スポーツクラブ等と連携して継続するとともに、新たな事業についても検討します。						
2. 施策の実績						

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

- ① 泉・柴崎両市民体育館で水泳、体操、各種ダンス等の教室を実施した。市民に身近な体育館で、子どもたちがスポーツの楽しさを体感し、継続してスポーツを楽しめる教室を開催した。
- ②～④ 体育協会に委託し「小学生クラブ交流大会」、「ソフトテニス教室」、普段スポーツをする機会が少ない子どもも参加できる複数の種目の教室として「ジュニア体力競技力向上事業」を実施した。
- ⑤ 地域スポーツクラブに委託し「なわとび検定会」を実施した。
- ⑥ 新規事業として平成28年度から「小学生姿勢教室」を実施した。親子でよい姿勢の大切さ、良い姿勢を保つための体操などを学んでいる。
- ⑦ 平成29年度より「泉市民体育館まつり」の会場で、子どもに親しみやすい競技を体験する機会を持てるようフットサル、新体操、卓球、ボルダリング教室等を開催した。
- ⑧ なわとびチャンピオン大会を開催した。年1回の開催で平成31年度で40回目を迎えた。
- ⑨ 立川シティハーフマラソンでは、小学1～3年生の親子ペアレース、小学3年生以上の3kmレースを開催した。なお、平成31年度の立川シティハーフマラソン2020は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催中止となった。

3. 成果と課題

<成果>

- 生活習慣の変容から正しい姿勢を保つことができない子どもが増えているため、「小学生姿勢教室」を実施し、親子ともに良い姿勢の大切さや、姿勢を保つことの大切さを理解させることができた。また、保護者からも好評で多くの参加があった。
- 「ジュニア体力競技力向上事業」や「泉市民体育館まつり」では、普段スポーツをする機会が少ない子どもにスポーツに親しむことができる機会を設け、スポーツへの関心を高めることができた。
- 「立川シティハーフマラソン」や「なわとびチャンピオン大会」など、子どもたちのスポーツ継続の目標となるイベントや大会を実施し、日頃の運動の成果を確認することができた。

<課題>

- 積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が起きており、スポーツをしない子どもが身近な地域で気軽にスポーツに取り組めるよう、地域と連携して、地域での子どものスポーツ活動を推進する必要がある。
- 教育委員会では、児童・生徒の体力向上に力を入れて取り組んでいることから、スポーツ施策とのさらなる連携を深める必要がある。

スポーツ推進計画の総括

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 「泉市民体育館まつり」において、子ども向けには、野球、サッカー教室等を開催した。その他のさまざまな種目の体験会を行い、多くの子どもが参加した。
- 中学生以上を対象とした体幹トレーニング実技体験会を中野ジェームズ修一氏を講師に招き、泉市民体育館にて実施した。
- 東京都体育協会からの委託事業として、ジュニア育成地域推進事業を実施した。テニス・新体操・陸上競技を始めとした13種目の競技を開催した。
- 以下のジュニアスポーツ教室事業を実施した。
 - ・小中学生陸上競技教室 ・年長～小学3年生ちびっこ軟式野球教室 ・読売巨人軍OB(ジャイアンツアカデミーコーチ)ちびっこ軟式野球教室
 - ・西武ライオンズ選手等を招いての中学生硬式野球教室 ・元テニスプレーヤー等を招いての小学生キッズテニス教室
 - ・小学生ソフトテニス教室 ・本部道場の師範による小・中・高校生合気道特別講習会
- 中学校総合体育大会会長と教育委員会の要請から平成14年より、野球やサッカーなど10競技の中学生大会を受け入れた。
- 平成25年に子どもたちへのスポーツ奨励として優良選手賞を創設した。

【立川青年会議所】

- 毎年5月に「わんぱく相撲 立川場所」を開催し、未就学児から小学6年生までの男女が参加した。大会で優勝すると、「わんぱく相撲東京都大会」に出場できる。

【日本レクリエーション協会/国営昭和記念公園/立川市レクリエーション協会】

- 毎年5月に国営昭和記念公園内で「全国一斉あそびの日」を実施した。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	I 市民のライフステージに応じたスポーツの推進
------	-------------------------

施策名	(2) 成人や子育て世代のスポーツの推進
-----	----------------------

1. 施策の概要

多様なニーズやライフスタイルに対応できるよう、新しい種目の検討や時間設定に配慮した教室を開催する。

【取組事項】

現在、硬式テニス、ランニングなどの屋外スポーツ教室や、ヨガ・エアロビクス・水泳などの屋内スポーツ教室を開催しておりますが、今後も多様なニーズ、ライフスタイルに対応できるよう、新しい種目の検討や時間設定に配慮した各種のスポーツ教室の開催に取り組みます。

2. 施策の実績

各種スポーツ関連教室、イベントの開催						(延べ参加者数)
番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①	体力年齢測定会	38	47	52	31	22
②	市民あるけあるけ運動	142	164	43	49	55
③	ラジオ体操・みんなの体操会	1,000	277	250	175	140
④	ラジオ体操講習会	-	66	57	32	47
⑤	成人対象事業「ママビクス&ベビーマッサージ」	140	118	160	146	146
	合 計	1,320	672	562	433	410

①～④ 幅広い年齢層でスポーツを楽しめる「体力年齢測定会」や「市民あるけあるけ運動」、「ラジオ体操・みんなの体操会」、「ラジオ体操講習会」を実施した。なお、市民あるけあるけ運動は、平成28年度まで年2回、平成29年度より年1回の実施としている。

⑤ 生涯学習推進センターが親子を対象にした「ママビクス&ベビーマッサージ」事業を実施した。

(その他)

○ 健康推進課が「ラフ&タフ体操教室」、「地域健康づくりグループ支援事業」、「健康づくり推進員によるウォーキングイベント」、「立川健康ポイント事業」等を実施した。

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 継続して実施している「市民あるけあるけ運動」はコース内容を検討し、幅広い世代からの参加を促せるよう、新たな取組を始め、参加者の増加につながった。
- 「ラジオ体操会」については、平成27年度にNHK特別巡回を立川市で開催したことを契機に、「みんなの体操会」と「指導者講習会」を継続して開催し、多くの市民が公認指導者から指導を受け、また、指導者資格を取得することができた。

<課題>

- スポーツ実施率が低い20代から40代をターゲットにしたスポーツ推進等が必要である。また、結婚、出産・子育てを機に、スポーツを行う機会が少なくなる女性に対しても、自宅や子育ての合間でも気軽に取り組める環境を整備する必要がある。
- 主に高齢者を対象としていた「体力年齢測定会」は、幅広い年齢層にスポーツに取り組む機会を提供するため、対象を20歳以上に広げて実施したが、参加者数が低迷している。今後は他の健康に関する事業と連携するなど、参加者数の増加につながる取組を実施する。
- 幅広い年齢層でスポーツを楽しむ機会を広げるため、誰でも気軽に始められるニュースポーツ等を推進する必要がある。
- 様々なライフスタイルの方が参加できるように、スポーツ教室の開催日程等を調整する必要がある。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 「泉市民体育館まつり」において、市民のスポーツを始めるきっかけづくりとなるような体育協会加盟団体のPRを実施した。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	I 市民のライフステージに応じたスポーツの推進
施策名	(3) 高齢者のスポーツの推進

1. 施策の概要

一人ひとりの健康状態やニーズに配慮しながら、各種教室を開催するとともに、健康・体力づくりを推進する。

【取組事項】

- ① 高齢者にも気軽に取り組めるスポーツ活動として、「市民高齢者2万歩ハイク」「市民あるけあるけ運動」などのウォーキング事業に取り組みます。
- ② 「筋力アップ貯筋体操教室」(平成30年度からは「体力アップ体操教室」)など、健康づくり事業のさらなる充実を図ります。
- ③ 「体力年齢測定会」を実施し、高齢者や高齢者世代を前にした方や、体力測定の機会が乏しい20歳以上の若い世代に、自己の健康管理や健康の維持・増進の知識を広げることに役立てます。
- ④ 高齢者や高齢者世代を前にした方々の健康づくりや体力づくりのために、庁内関係課(高齢福祉課・健康推進課・生涯学習推進センターなど)と連携して事業に取り組みます。
- ⑤ 輪投げなど、子どもから高齢者まで誰でも楽しめるスポーツによって、異世代間の交流を図ることを目指します。

2. 施策の実績

高齢者対象及び高齢者の参加が多いスポーツ事業			(延べ参加者数)				
番号	事業名		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①	みんなでストレッチ教室	泉市民体育館	12,745(198回)	12,783(190回)	11,681(193回)	11,329(186回)	8,048(174回)
		柴崎市民体育館	2,167(44回)	2,011(43回)	2,098(40回)	1,983(41回)	1,698(40回)
②	軽体操教室	柴崎市民体育館	2,093(40回)	1,927(42回)	2,197(42回)	2,633(43回)	1,927(38回)
③	市民高齢者2万歩ハイク		85	66	67	51	36
④	市民あるけあるけ運動(再掲)		142	164	43	49	55
⑤	筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室		208	192	190	186	181
⑥	体力年齢測定会(再掲)		38	47	52	31	22
⑦	ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)		1,000	277	250	175	140
⑧	ラジオ体操講習会(再掲)		-	66	57	32	47
⑨	スポレクフェスタ		2,603	2,413	2,419	2,110	2,156
⑩	保健講座「やさしいヨガ教室」		156	133	117	196	137
⑪	保健講座「楽しく元気を目指せ健康づくり」		45	38	38	36	18

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

⑫	保健講座「いきいき体操！」	39	47	28	58	40
⑬	保健講座「やさしい健康気功」	118	128	76	122	69
⑭	保健講座「やさしい太極拳」	128	68	134	211	121
⑮	保健講座「はじめよう！ポールウォーキング」	－	30	38	18	－
⑯	保健講座「正しい姿勢で歩こう！ポールウォーキング」	－	62	－	－	－
⑰	保健講座「はじめてのミニテニス」	－	60	－	－	－
⑱	保健講座「はじめてのターゲットバードゴルフ」	－	43	－	－	－
⑲	保健講座「シナプソロジー」	－	－	－	48	34
⑳	一般介護予防事業「地域体操クラブ」	－	319	166	90	81
㉑	一般介護予防事業「健康体操応援リーダー等派遣事業」	－	30	70	132	267
㉒	高齢者対象事業「寿教室」	12,453	13,210	12,202	11,507	11,900
	合 計	34,020	34,114	31,923	30,997	26,977

①・② 泉・柴崎両市民体育館において、「みんなでストレッチ教室」や「軽体操教室」を継続して実施し、多くの高齢者の参加があった。

③・④ 高齢者にも気軽に組み入れるスポーツ活動として、「市民高齢者2万歩ハイク」と「市民あるけあるけ運動」のウォーキング事業を実施した。なお、市民あるけあるけ運動は、平成28年度まで年2回、平成29年度より年1回の実施としている。

⑤ 「筋力アップ貯筋体操教室（平成30年度からは「体力アップ体操教室」に名称変更）」を年2回（7月と11月）実施した。

⑥～⑧ 幅広い年齢層でスポーツを楽しめる「体力年齢測定会」や「ラジオ体操・みんなの体操会」、「ラジオ体操講習会」を実施した。

⑨ 中高齢者のスポーツ・レクリエーションの場として、スポレクフェスタを開催した。

⑩～⑲ 福祉総務課（福祉会館）にて、シルバー大学事業を実施し、各種スポーツに関する講座を開設した。

⑳・㉑ 高齢福祉課にて、一般介護予防事業として「地域体操クラブ」や「健康体操応援リーダー等派遣事業」を実施した。

㉒ 生涯学習推進センター（地域学習館・学習等供用施設）にて、寿教室事業を実施し、健康体操やフォークダンス等の講座を開設した。

（その他）

○ 健康推進課にて、自治会連合会の支部単位で健康フェアを開催したほか、健康会館等で「ラフ＆タフ体操教室」を開催した。

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 高齢者対象のスポーツや運動事業は、庁内関係課で実施しているため、他の世代に比べ、高いスポーツ実施率を挙げることができた。
- 「体力年齢測定会」は、健康運動指導士の講義を合わせて行うことで、健康管理、体力維持へのモチベーションを保つための機会とすることができた。
- 日常からできる寝たきりにならない体づくりを目指す「筋力アップ貯筋体操教室（平成30年度からは「体力アップ体操教室」に名称変更）」を継続して実施し、毎回定員を上回る応募があった。

<課題>

- 元気な高齢者からあまり外出を望まない高齢者まで、一人ひとりの体力に合わせて継続して参加できる種目を検討する必要がある。
- 各種事業の参加者が高齢化・固定化しているため、新たな参加者を取り込む事業を検討する必要がある。
- 付加価値を取り入れた事業内容に変更するなど、参加者のニーズを的確に捉える必要がある。
- 庁内関係課と連携した取組は、ラジオ体操事業にとどまっているため、幅広い事業での連携を検討していく必要がある。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 東京都体育協会からの委託事業として、60歳以上を対象としたシニアスポーツ振興事業(9種目)を実施した。

【立川市老人クラブ連合会】

- 毎年9月に泉市民体育館で立川市老人クラブ連合会主催の運動会が実施され、例年、参加者は1,000人を超えている。審判員と司会進行担当として、スポーツ推進委員とスポーツ振興課の職員が協力している。
- 毎年5月に立川市老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会が開催されている。会場は砂川中央多目的広場で、参加人数は約400人、約60チーム。秋には東京都老人クラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会の出場をかけて選抜大会が開催されている。
- 泉市民体育館で立川市老人クラブ連合会主催の輪投げ大会が開催されている。80チームを超える参加があり、参加者は約500人。
- 立川市老人クラブ連合会主催でペタンク大会が開催されている。会場は砂川中央地区多目的運動広場。30チームを超える参加があり、参加者は約120人。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	I 市民のライフステージに応じたスポーツの推進
------	-------------------------

施策名	(4) 障害者のスポーツの推進
-----	-----------------

1. 施策の概要

障害者等を対象としたスポーツ教室等を充実するとともに、各種イベント等様々な機会を利用し啓発する。

【取組事項】

- ① 障害者週間や市内各種イベント等様々な機会を利用して障害者スポーツの紹介や、障害のある人もない人も一緒にできるスポーツの実施により、障害者スポーツの理解・啓発に努めます。
- ② スポーツ推進委員協議会では障害者スポーツについての研修を重ねており、今後は障害福祉課、関係団体とも連携した取り組みを進めます。
- ③ 現在実施している障害者スポーツ大会やハンディ水泳教室に加え、障害者を対象としたスポーツ教室等の充実を図ります。

2. 施策の実績

障害者スポーツ教室、イベントの開催						(延べ参加者数)
番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①	ブラインドサッカー体験会	154	867	767	600	364
②	スポーツ推進委員主催ボッチャ体験会	51	33	29	27	42
③	ハンディ水泳教室	108	138	433	107	59
④	チャレンジスポーツ教室	129	597	665	723	514
⑤	障害者スポーツイベント	81	211	224	167	97
⑥	障害者スポーツ大会	578	616	578	598	632
	合 計	1,101	2,462	2,696	2,222	1,708

ボッチャ用具の貸出					
内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
ボールセット	(1団体) 1セット	(3団体) 4セット	(39団体) 74セット	(33団体) 62セット	(28団体) 48セット
ランプ	(1団体) 1セット	(2団体) 3個	(16団体) 18個	(3団体) 7個	(1団体) 2個

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

- ① 緑化まつりやたちかわ楽市にて、五人制サッカー（ブラインドサッカー）体験会を実施するとともに、障害者スポーツの用具（ボッチャ、車いすバスケ・陸上競技の競技用車いす等）を展示し、障害者スポーツの理解・啓発のための事業を実施した。また、ボッチャボール4セット、ランプ等を購入し、地区体育会や関係機関への貸出を行ない、障害者スポーツの普及に努めた。
- ② スポーツ推進委員協議会では毎年、障害者スポーツ研修を兼ねてボッチャ体験会を実施しており、身体障害・知的障害の方々が参加した。なお、平成31年度は障害者に限らず、市民であれば誰でも参加可能なスポーツ体験会（名称は「チャレンジスポーツ！たちかわ」）を、ボッチャや風船バレー等の多種目で実施した。
- ③ 体育館指定管理者の運営によるハンディ水泳教室を継続して実施した。
- ④ 障害者が継続して参加しスポーツを続けられる教室として、平成27年度よりチャレンジスポーツ教室を開催した。ボッチャ、ヨガ、バドミントンなどを28年度からは泉・柴崎両市民体育館で、また、29年度からは障害者施設等へ講師が訪問し教室を実施している。
- ⑤ 障害者スポーツイベントとして、泉市民体育館では、障害者の水泳大会としてアクアフェスティバルや、中学校バレーボール部などを対象としてシッティングバレー体験会を実施したほか、体育協会への委託事業として地区対抗でのボッチャ大会等を実施した。
- ⑥ 毎年10月に泉市民体育館にて障害者スポーツ大会が実施されている。

3. 成果と課題

<成果>

- 2020年東京パラリンピック競技大会の開催を契機として、障害者スポーツの普及活動を行い、障害者スポーツの認知度向上や障害者スポーツを継続して楽しめる環境づくりを進めることができた。
- ボッチャに関しては、平成27年度から市民体育館で継続した教室を実施したほか、平成28年度には障害の有無に関わらず参加できるボッチャ体験会を実施し、また、平成29年度以降は、審判の指導もあわせて行うことで、大会を開催する体制を整えることができた。また、ボッチャ用具の貸出体制を整え、多くの団体が利用しボッチャに親しむことができた。
- 障害者が参加しやすい教室として、市民体育館においてボッチャ、バドミントン、ヨガなどの教室を開催し、健常者と障害者がともにスポーツを楽しむことができる環境を整えることができた。また、体育館に足を運ぶことが難しい障害者も参加できるよう、施設への訪問教室を実施することで、より多くの障害者の参加を促すことができた。

<課題>

- 平成30年4月1日より「立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例」が施行されていることから、障害のある人が利用しやすい環境整備に取り組む必要がある。具体的には、気軽に利用できるようバリアフリー対応やサポート体制の充実などにより、参加できる教室や事業の拡大が必要である。
- パラリンピック開催を契機として、地域での障害者スポーツの裾野を広げ、障害の有無にかかわらず共に参加できる環境づくりを進めてきた。大会終了後も、障害者スポーツへの関心を維持し、共に参加できる教室等を実施していく必要がある。

スポーツ推進計画の総括

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【東京都】

- 平成27年度たちかわ楽市会場において、東京都主催のパラリンピック大会・競技体験等普及啓発プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」が実施された。障害者スポーツ関連の展示や、車いすバスケット、射撃の体験会が行われた。

【立川市体育協会】

- 平成27年度に「泉体育館まつり」において、ボッチャ体験コーナーを設け、障害者スポーツを推進した。
- 渡辺政男氏、渡邊健太氏を招き、地区対抗でのボッチャ大会を開催した。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進																												
施策名	(5) 地域スポーツクラブの支援																												
1. 施策の概要																													
地域スポーツクラブの活動を支援し、あらゆる世代が参加できるよう事業展開を推進する。																													
【取組事項】																													
① 東京都市長会の助成金を活用して、地域スポーツクラブが実施する子どもを対象としたスポーツ教室等へ助成を行っています。引き続き、地域スポーツクラブの活動を支援し、あらゆる世代が参加できるよう事業展開を推進します。																													
【参考】																													
地域スポーツクラブとは、だれでも、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができる、身近な生活圏のスポーツ拠点です。その特徴としては、①複数の種目に対応できること。②子どもから高齢者まで、初心者から競技者まで、地域の誰もが継続して活動できること。③学校体育施設や公共のスポーツ施設など活動の拠点となるスポーツ施設があること。④個々のスポーツニーズに対応したスポーツ指導が行われること。⑤地域住民が主体的に運営すること。などが挙げられます。																													
本市には、平成23年12月に東京都の認証を受けた12の地域スポーツクラブがあり、地域の日常的なスポーツ活動の場として機能しています。このクラブは、子どもから大人まで、また、高齢の方や障害のある方を含めすべての人を対象としており、また運営に関しても地域住民自らが主体となっていることが特徴です。																													
2. 施策の実績																													
<table><tr><td>地域スポーツ教室の開催</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>平成31年度</td></tr><tr><td>延べ参加者数</td><td>11,068</td><td>9,706</td><td>10,138</td><td>7,025</td><td>6,266</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>1,058</td><td>876</td><td>949</td><td>608</td><td>636</td></tr></table>						地域スポーツ教室の開催							平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	延べ参加者数	11,068	9,706	10,138	7,025	6,266	開催回数	1,058	876	949	608	636
地域スポーツ教室の開催																													
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																								
延べ参加者数	11,068	9,706	10,138	7,025	6,266																								
開催回数	1,058	876	949	608	636																								
○ 身近な地域で誰もが参加できるスポーツとして、「なわとび検定会」、「ソフトバレーボール」などの地域スポーツ教室を実施している。																													
※平成29年度から31年度にかけての数字の落ち込みは、大規模改修により学校体育施設が利用できない地域があったことによる。																													
＜大規模改修工事＞																													
平成30年度・・・第五小学校の校庭、南砂小学校の校庭の利用中止																													
31年度・・・第五小学校の体育館、第七小学校の校庭と体育館、南砂小学校の校庭の利用中止																													

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 地域スポーツクラブ(地区体育会)が地域に身近な小中学校を利用し、さまざまなスポーツ教室を実施することで、誰もがスポーツに親しみ、気軽に取り組むことができるようになった。

<課題>

- 市内12地区にある地域スポーツクラブの活性化と独自性の高揚が必要である。
- 地域のスポーツ活動を活性化するために、地域が自主的に健康づくりや体力づくりに関する活動を行う意識付けが必要である。
- 令和4年度から総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度が開始されるため、地区体育会が制度に基づいた運営を行うための具体的な支援等を検討する必要がある。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 地区体育会の連携を図るため、立川市体育協会内に地区体育会の代表からなる地域スポーツ振興委員会が設置されている。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進																																																													
施策名	(6) 地域スポーツ団体との連携によるスポーツ振興・競技力向上の推進																																																													
1. 施策の概要																																																														
地域スポーツ団体と連携し市民の競技力の向上を図るとともに、健康増進や体力の維持・向上に努める。																																																														
【取組事項】																																																														
① 令和2(2020)年に開催される「東京オリンピック・パラリンピック」をさらなるスポーツ活動の普及の契機として、市民の競技力の向上はもとより、健康増進、体力の向上を図り、スポーツの振興に努めます。																																																														
2. 施策の実績																																																														
<table><tr><th colspan="2">競技スポーツの振興事業</th><th></th><th></th><th></th><th></th><th>(延べ参加者数)</th></tr><tr><th>番号</th><th>事業名</th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th></tr><tr><td>①</td><td>市民体育大会</td><td>25,405</td><td>26,069</td><td>23,550</td><td>22,712</td><td>17,552</td></tr><tr><td>②</td><td>アスリートスポーツ教室</td><td>-</td><td>-</td><td>63</td><td>138</td><td>149</td></tr><tr><td>③</td><td>泉市民体育館まつり(再掲)</td><td>-</td><td>289</td><td>461</td><td>704</td><td>401</td></tr><tr><td>④</td><td>都民体育大会</td><td>347</td><td>354</td><td>327</td><td>288</td><td>304</td></tr><tr><td>⑤</td><td>都民生涯スポーツ大会</td><td>136</td><td>148</td><td>151</td><td>145</td><td>155</td></tr><tr><td></td><td>合 計</td><td>25,888</td><td>26,860</td><td>24,552</td><td>23,987</td><td>18,561</td></tr></table>							競技スポーツの振興事業						(延べ参加者数)	番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	①	市民体育大会	25,405	26,069	23,550	22,712	17,552	②	アスリートスポーツ教室	-	-	63	138	149	③	泉市民体育館まつり(再掲)	-	289	461	704	401	④	都民体育大会	347	354	327	288	304	⑤	都民生涯スポーツ大会	136	148	151	145	155		合 計	25,888	26,860	24,552	23,987	18,561
競技スポーツの振興事業						(延べ参加者数)																																																								
番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																																								
①	市民体育大会	25,405	26,069	23,550	22,712	17,552																																																								
②	アスリートスポーツ教室	-	-	63	138	149																																																								
③	泉市民体育館まつり(再掲)	-	289	461	704	401																																																								
④	都民体育大会	347	354	327	288	304																																																								
⑤	都民生涯スポーツ大会	136	148	151	145	155																																																								
	合 計	25,888	26,860	24,552	23,987	18,561																																																								
① 立川市体育協会に委託し、立川市民体育大会を実施した。大会はオープンの競技と12地区の地区体育会の対戦競技から成っている。各地区代表選手の選考を兼ねて、地区の町民運動会や各種スポーツ大会を開催し、地区対抗の競技会や中央大会への出場選手を発掘し、市民の競技力の向上を図っている。																																																														
② 平成29年度より新規事業として、地域でスポーツを楽しむ市民の競技力向上を目的としてアスリートスポーツ教室を開催している。																																																														
③ 体育協会が主催で開催される泉体育館まつりでは、体育協会と連携し、市民に親しみやすいスポーツの体験会等を実施した。																																																														
④・⑤ 都民体育大会や都民生涯スポーツ大会に出場する選手や団体への補助を実施した。																																																														

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 市民体育大会においては、各地区における代表選手の選考を兼ねて、地区の町民運動会や各種スポーツ大会が開催され、中央大会への出場選手を発掘することで、市民の競技力の向上につながった。また、継続して実施することで、参加者の体力向上や健康づくりにつながった。
- 立川市体育協会加盟の競技団体と連携することにより、継続してスポーツをする市民に対して、地域の中でレベルの高い指導を受けられる環境を整えることができた。

<課題>

- 各競技団体・地区体育会が実施する事業に補助金を交付し、スポーツの振興を図っているが、参加する市民が固定化しているため、市民に対しての広報活動や各事業の実施形態、方法について工夫をしていく必要がある。
- 地域では町民運動会をはじめとした様々なスポーツ事業を行っているが、地域の一部の参加者のみであるため、新しい参加者の取り込みが課題である。
- 市民体育大会は、ニュースポーツ、障害者スポーツなども視野に入れ、市民がより参加しやすい種目、開催方法を検討する必要がある。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 東京都体育協会からの委託事業として、ジュニア育成地域推進事業を実施した。テニス・新体操・陸上競技を始めとした13種目の競技を開催した。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進
施策名	(7) 地域におけるスポーツの推進
1. 施策の概要	
地区体育会が実施する地域スポーツ教室を支援するとともに、各地域団体の事業展開を支援する。 【取組事項】 ① 地区体育会が地域のニーズに即した内容で実施する地域スポーツ教室を支援します。 ② 庁内関係課の既存事業と連携し、各種地域団体の地域における事業展開を支援します。	
2. 施策の実績	
○ 12地区体育会では、市からの委託事業で「なわとび検定会」や地域のニーズに応じた事業、教室を実施している。 ○ 地域団体が実施するスポーツ事業に備品の貸し出しを行っている。 ○ 健康推進課では健康づくり推進員(健康ささえ隊)を養成し、ヨガやウォーキング、脳トレ体操等の催しを企画・運営している。 ○ 子ども育成課では地区子ども会連合会が実施するスポーツ大会等の事業(ドッジボール大会、ボウリング大会等)に、補助金を支出している。	
3. 成果と課題	
＜成果＞ ○ 地域スポーツ教室をととして、各地域での主体的な活動を継続して支援することにより、各地域の特色を活かした自主的な活動につながった。 ○ 地域団体へ備品貸出をすることにより、地域の活動をより円滑に進められるよう支援した。なお、備品貸出件数は増加傾向にある。 ＜課題＞ ○ 「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を修了した方が、ラジオ体操の普及啓発活動をする場合に報酬を支払う制度を制定したが、利用促進が今後の課題となっている。 ○ 地区体育会の活動の充実・活性化のため、認知度の向上・参加者層の増大が必要である。 ○ 身近な地域でさまざまな団体がスポーツ活動を行っていることが知られていない。このため、地域住民への周知と新たな参加者層の取り込みが課題である。	
[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組	
○ 各青少年健全育成地区委員会にて、9地区13校で地区委員会プールを実施している。	

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進																																								
施策名	(8) ニュースポーツによるスポーツの推進																																								
1. 施策の概要																																									
市民が気軽にスポーツ活動に取り組み、健康・体力づくりに寄与するよう、新たなニュースポーツの定着を図る。																																									
【取組事項】																																									
①「ソフトバレーボール大会」を開催し、「ソフトバレーボール」を市民が気軽に楽しむことのできるスポーツとして定着するよう支援します。																																									
② 市民が気軽にスポーツ活動に取り組み、健康・体力づくりに寄与するよう、新たなニュースポーツを紹介する活動を行います。																																									
2. 施策の実績																																									
<table><tr><td colspan="2">ニュースポーツ振興事業</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(延べ参加者数)</td></tr><tr><td>番号</td><td>事業名</td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>平成31年度</td></tr><tr><td>①</td><td>ソフトバレーボール大会</td><td>208</td><td>213</td><td>195</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>②</td><td>ニュースポーツ体験会(ゴールドドッジ体験会)</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>128</td><td>161</td></tr><tr><td></td><td>合 計</td><td>208</td><td>213</td><td>195</td><td>128</td><td>161</td></tr></table>							ニュースポーツ振興事業						(延べ参加者数)	番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	①	ソフトバレーボール大会	208	213	195	-	-	②	ニュースポーツ体験会(ゴールドドッジ体験会)	-	-	-	128	161		合 計	208	213	195	128	161
ニュースポーツ振興事業						(延べ参加者数)																																			
番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																			
①	ソフトバレーボール大会	208	213	195	-	-																																			
②	ニュースポーツ体験会(ゴールドドッジ体験会)	-	-	-	128	161																																			
	合 計	208	213	195	128	161																																			
①「ソフトバレーボール大会」は、平成29年度の12回目をもって終了した。地区体育会にもこのスポーツが浸透し、地域でもソフトバレーボール大会が開催され地域に定着している。																																									
② 平成30年度からスポーツ推進委員協議会の活動として、ソフトバレーボール大会に変わる新たなニュースポーツを検討し、スポーツ推進委員協議会や地区体育会の協力を得て体験会を実施した。ゴールドドッジをニュースポーツとして市民に紹介する準備を進めている。																																									
(その他)																																									
○ 生涯学習推進センターにて、吹き矢による健康実践講座を開設した。																																									
○ 福祉総務課にて、保健事業として「はじめてのターゲットバードゴルフ」や「はじめよう！ポールウォーキング」を実施した。																																									

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 普及を推進してきたソフトバレーボールについては、市民の競技者も増え、地域での活動も活発に行われるようになり、市民が気軽に楽しむことのできるスポーツとして定着することができた。
- スポーツ実施率の向上を目指し、ソフトバレーボールやミニテニスとは異なる年齢層をターゲットとした新たなニュースポーツを普及するため、種目選定、ルール検討など、普及活動にむけた準備を進めることができた。

<課題>

- より幅広い層に親しまれる新たなニュースポーツとして、「ゴールドッチ」を推進していくが、広く市民に浸透し定着させていくことが課題である。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

- 「泉市民体育館まつり」で手のひらバレー・ソフトバレーボール・シャドーボクシング・スポーツ吹き矢・ラダーゲッター・ターゲットバードゴルフ・ボルダリング等の体験コーナーを設け、ニュースポーツの推進を図った。
- 国営昭和記念公園内で「クップ大会」、「スポーツEXPO in 多摩」、「マイスポーツラリー」が実施された。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進																																														
施策名	(9) 立川シティハーフマラソンの推進																																														
1. 施策の概要																																															
市民が気軽に参加できる大会とするとともに、産業振興や地域活性化の視点を取り入れ、さまざまなイベントを合わせて実施することにより、賑わいを創出する。																																															
【取組事項】																																															
① 子どもから大人まで気軽に参加できる市民マラソンとして、市民のスポーツ振興はもとより、多様な交流や、健康づくりとともに、地域の活性化にもつながる立川シティハーフマラソンの充実に向け取り組みます。																																															
2. 施策の実績																																															
<table><tr><td>立川シティハーフマラソン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(参加者数)</td></tr><tr><td>種目</td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>平成31年度</td></tr><tr><td>ハーフマラソン(一般)</td><td>6,641</td><td>6,637</td><td>6,809</td><td>6,578</td><td>－</td></tr><tr><td>ハーフマラソン(学生)</td><td>1,042</td><td>1,044</td><td>1,018</td><td>919</td><td>－</td></tr><tr><td>3kmレース</td><td>1,845</td><td>1,968</td><td>1,849</td><td>1,627</td><td>－</td></tr><tr><td>親子ペアレース</td><td>518</td><td>518</td><td>584</td><td>532</td><td>－</td></tr><tr><td>合 計</td><td>10,046</td><td>10,167</td><td>10,260</td><td>9,656</td><td>－</td></tr></table>						立川シティハーフマラソン					(参加者数)	種目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	ハーフマラソン(一般)	6,641	6,637	6,809	6,578	－	ハーフマラソン(学生)	1,042	1,044	1,018	919	－	3kmレース	1,845	1,968	1,849	1,627	－	親子ペアレース	518	518	584	532	－	合 計	10,046	10,167	10,260	9,656	－
立川シティハーフマラソン					(参加者数)																																										
種目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																										
ハーフマラソン(一般)	6,641	6,637	6,809	6,578	－																																										
ハーフマラソン(学生)	1,042	1,044	1,018	919	－																																										
3kmレース	1,845	1,968	1,849	1,627	－																																										
親子ペアレース	518	518	584	532	－																																										
合 計	10,046	10,167	10,260	9,656	－																																										
※平成31年度の立川シティハーフマラソン2020は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催中止となった。																																															
3. 成果と課題																																															
＜成果＞																																															
○ 参加者数は1万人前後で推移し、毎年参加されるランナーも多く、本市を代表するイベントの一つに成長した。																																															
○ 「する」スポーツだけでなく、学生トップランナーが参加する日本学生ハーフマラソン選手権大会を併催することで、「みる」スポーツとしても定着した。																																															
○ 多くの企業から協賛を頂いていることや、市内の関係団体や企業、学校、自治会、一般ボランティアなどによる「ささえる」スポーツとして成立した。																																															
○ 当日、会場ではさまざまな企業・団体の協力により活気のあるイベントを行っているほか、会場外でも多くの方が観戦していることにより、まちの賑わいと観光振興につながった。																																															

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題（続き）

<課題>

- 大会を安定的・継続的に開催していくためには、増加する運営経費に見合った財源の確保や、関係団体等とのより一層の連携の強化、ボランティアの育成等の支える人材の確保が課題である。
- 大会がランナーから支持され、今後も継続できるよう、大会の魅力づくりと付加価値を検討していく必要がある。
- 大会の開催が一週間繰り下がったため、気温の上昇による熱中症対策が課題である。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、2大会（2020大会・2021大会）連続で開催中止となっている。2022大会以降は、日本陸上競技連盟の定める「ロードレース再開についてのガイダンス」を遵守しながら、万全な感染症対策を講じ、安全安心な大会とする。
- 学生のトップレベルの選手と共に走ることができる貴重な機会であるが、足切りもあり、市民ランナーは力のある人でないと参加できない大会との指摘もあるため、市民マラソンとして継続させていくことが課題である。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

- 立川シティハーフマラソンの事務局を体育協会職員が市のスポーツ振興課と共同で運営している。「大会についてのお問い合わせ先」や庶務・会計、体育協会加盟の競技団体を取りまとめ、大会ボランティア手配等を体育協会が担当している。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅱ 交流と連携による地域スポーツの推進
施策名	(10) トップアスリートによるスポーツの推進
1. 施策の概要	
子どもたちにトップレベルの選手のプレーを観る機会を提供し、スポーツへの興味と取り組むきっかけとする。 【取組事項】 ① 立川市などをホームタウンとしているJリーグ「東京ヴェルディ」の主催試合に子どもたちを観戦招待することにより、プロサッカー選手のプレーを見る機会を提供します。また、「東京ヴェルディ」によるサッカークリニックなど、プロの選手・コーチから直接指導を受けるような取り組みも実施します。 ② 泉市民体育館では、平成25(2013)年度よりプロバスケットボールの試合が行われ、身近なスポーツ施設でトップアスリートによるプレーを見ることができるようになりました。引き続き、バスケットボールに限らずトップレベルの試合が市内のスポーツ施設で行われるよう奨励します。	
2. 施策の実績	
① 「東京ヴェルディ」の主催試合に子どもたちを観戦招待する「立川サンクスマッチ」を年1回継続して実施した。平成31年度からは「ホームタウンデー」に名称が変更されている。出資する4市の中で、市民招待試合の観戦者数は立川市が最も多くなっている。 ② 平成29年度にアルバルク東京、3×3バスケットボール立川ダイスと、スポーツによる地域活性化に関する連携を推進するとともに、地域社会の発展及び振興を図ることを目的に相互協力協定を締結した。 ③ 平成29年度まで泉市民体育館でプロバスケットボールB3の八王子トレインズの試合が行われていた。 ④ 3人制バスケットボールの立川ダイスの発足や、プロバスケットB1のトヨタアルバルク東京とフットサルの立川・府中アスレティックフットボールクラブが本市をホームタウンとしたことで、身近な場所でトップアスリートによるプレーを観戦できる機会が増加した。 ⑤ 平成29年度よりアスリートスポーツ教室事業を実施した。泉市民体育館個人利用者を対象に、水泳、バドミントン及び卓球について、全国大会レベルの指導者による教室を実施した。 ⑥ 東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催を契機として、オリンピック・パラリンピアンを小中学校やスポーツ教室に派遣し、講演や直接指導を受けるなどの機会を設けた。	
3. 成果と課題	
＜成果＞ ○ 市内に拠点を置くプロスポーツチームが増えたことにより、プロスポーツの強みである「みる」スポーツの環境が充実した。市民の観戦優待をするなど観戦機会が増加したことにより、プロスポーツへの市民の関心を高めることができた。 ○ プロスポーツチームの選手やスタッフによるスポーツ教室での指導や、障害者スポーツ教室の運営など、プロスポーツチームが有するブランド力や人材、企画・運営力を活かしながら、連携してスポーツ普及に取り組むことができた。	

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題（続き）

＜課題＞

- 庁内各課が独自に対応しているため、庁内での情報共有が不足している。情報の窓口の一元化等を図る必要がある。
- 市からの具体的な連携事項の提示など、さらなる連携強化が課題となっている。
- 市内で活動するプロスポーツチームは増えたが、市民の認知度が一部にとどまり浸透していないことや、プロスポーツを活用したまちづくりの推進が課題である。

【参考】施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- 「泉市民体育館まつり」では、3人制バスケットボールチームのTACHIKAWA DICE.EXEを始めとして、水泳、フットサル及び卓球にトップアスリートを招いて開催した。
- 東京都体育協会の委託事業でジュニア育成地域推進事業としてジュニアバレーボール教室を開催した。元女子Vリーグ所属の榛澤舞子氏、男子Vリーグ所属の松尾敬介氏による指導を実施した。

【その他】

- 商工会議所を中心として、トヨタアルバルク東京、東京ヴェルディ、TACHIKAWA DICE.EXE、フットサルの立川・府中アスレティックフットボールクラブ、サイクルレースの東京ヴェントス、石川ボクシングの6団体で「立川プロスポーツ連絡会」が結成された。チームと地域との連携を深め、市民が身近な場所でトップアスリートの試合を観戦したり選手と触れ合う機会が増えている。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実				
施策名	(11) 既存スポーツ施設等の整備・充実				
1. 施策の概要					
市民の様々なスポーツ需要に対応する施設を整備する。一方、施設の課題や老朽化に対応する改修工事を行う。					
【取組事項】					
① 庭球場の改修整備。天候の影響を受けず、管理がしやすく利用しやすい全天候型(砂入り人工芝)コートを錦町庭球場に続いて泉町庭球場に整備し、市の南北それぞれの地区に配置します。					
② 立川公園陸上競技場の改修。昭和34(1959)年に竣工した立川公園陸上競技場(公認4種)は、築55年の経過に伴い、老朽化が激しくなっています。また、トラックがクレー(土)であることから、利用者の減少や規模の大きな大会が開催されないなど、利用率低迷という課題を抱えていました。そこで、トラックを全天候型に更新し、スタンドを改築した上で公認2種※の陸上競技場に大規模改修を行います。フィールド内はサッカー競技のできる複合施設とします。					
③ 女性がスポーツしやすい環境整備。スポーツをする女性や、観る女性が利用しやすいよう、泉町・錦町各庭球場近くに立地する泉・柴崎両市民体育館の更衣室・シャワーのみの利用について、低廉な価格で利用できるよう同両市民体育館指定管理者と協議・検討していきます。また、立川公園野球場につきましても、トイレが男女兼用となっていることから、女性が利用しやすいよう、男女別トイレに改修を行います。					
④ 屋外体育施設の効率的活用。子どもの体力低下の原因の一つとして、外遊びの減少が挙げられています。子どもの成長に欠かすことのできない「体力」を向上させる一助とするため、平日の比較的利用の少ない施設及び時間帯を「外遊び」用の施設として開放します。					
⑤ 屋外体育施設の配置。「新庁舎周辺土地利用計画」では、立川基地跡地内の一部区域において、新たに運動公園等を整備していく方向が示されています。今後、この計画の中で整備する運動施設については、設置条件なども含め諸条件を整理し、市域全体の屋外体育施設の機能を精査した上で検討してまいります。					
2. 施策の実績					
○ 市体育施設利用者数の表					
項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
市体育施設利用者数	1,088,917	1,121,377	1,090,670	1,064,891	996,004
① 平成27年度に、泉町庭球場を全天候型(砂入り人工芝)コートに改修した。					
② 平成28年度までに、立川公園陸上競技場の改修に向けた実施設計を行った。					
③ 平成29年度～30年度に立川公園野球場の便所改修工事を実施し、男女兼用トイレを男女別にするとともに、だれでもトイレやバリアフリー設備を設置し、女性をはじめ誰もが使いやすい施設環境づくりを進めた。合わせて、見影橋公園野球場の便所改修工事を平成30年度に実施し、だれでもトイレやバリアフリー設備を設置し、誰もが使いやすい施設環境づくりを進めた。					

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

- ④ 砂川中央地区多目的運動広場において、毎週水曜日の午後を「遊びの広場」として子どもたちが自由に利用できるように開放することとした。
- ⑤ 平成31年度に、泉市民体育館第二体育室に空調設備を設置し、年間を通して安全で快適に利用できる施設環境を整備した。

3. 成果と課題

<成果>

- 市民体育館については、指定管理者制度を活用した管理運営を進めた結果、市直営時と比較し大幅な利用者数増となっており、市民や団体の運動をする機会の拡大につなげることができた。泉市民体育館では、利用機会の拡大につながる改修工事を実施し、誰もが快適に利用できる施設環境の整備を進めることができた。
- 屋外体育施設については、利用機会の拡大につながる改修工事やバリアフリー化工事を順次実施し、誰もが快適に利用できる施設環境の整備を進めることができた。

<課題>

- 体育施設全体の老朽化が進んでおり、安全で安定的な施設管理運営を維持していくためには、施設や設備の計画的な修繕・更新が必要となっている。そのために、今後の施設整備の方向性や管理運営手法のあり方を定める必要がある。
- 近年厳しさを増している猛暑時の熱中症対策の対応が求められる。
- 屋外体育施設は、応援する、観戦するという観点から整備されていない。今後は、「みる」という観点からの整備が求められる。

[参考] 施策に関連した市以外の団体が実施した取組

- 市内民間企業によりアリーナ等の施設が整備され、市民がプロスポーツやトップアスリートに触れる機会が広がった。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実																						
施策名	(12) 学校施設の有効活用																						
1. 施策の概要																							
学校教育に支障のない範囲で、校庭や体育館を遊び場やスポーツ活動の場として開放する。																							
【取組事項】																							
① 学校教育に支障のない範囲で、現在の利用区分以外の時間帯も含め、スポーツ活動の場を提供できるよう検討します。																							
2. 施策の実績																							
＜学校開放事業＞																							
小学校の校庭や体育館を遊び場として開放し、合わせてスポーツ団体に小中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放し、地域のスポーツ活動の拠点となることで、スポーツに親しむ機会を提供した。																							
なお、計画期間中は、小中学校の大規模・中規模改修が順次実施され、当該校においては体育館や校庭を使用できない期間があった。																							
<table><tr><td>利用者数</td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>平成31年度</td></tr><tr><td>スポーツ利用</td><td>373,953</td><td>371,276</td><td>371,142</td><td>372,789</td><td>317,967</td></tr><tr><td>遊び場開放</td><td>63,291</td><td>71,856</td><td>59,093</td><td>53,829</td><td>46,788</td></tr></table>						利用者数	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	スポーツ利用	373,953	371,276	371,142	372,789	317,967	遊び場開放	63,291	71,856	59,093	53,829	46,788
利用者数	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																		
スポーツ利用	373,953	371,276	371,142	372,789	317,967																		
遊び場開放	63,291	71,856	59,093	53,829	46,788																		
【学校開放利用者数への影響要因】																							
○大規模改修工事																							
平成27年度・・・第六小学校の校庭と体育館の利用中止																							
28年度・・・第八小学校の校庭と体育館の利用中止																							
29年度・・・第五小学校の校庭、南砂小学校の体育館の利用中止																							
30年度・・・第五小学校の校庭、南砂小学校の校庭の利用中止																							
31年度・・・第五小学校の体育館、第七小学校の校庭と体育館、南砂小学校の校庭の利用中止																							
○学校統合																							
平成30年度・・・けやき台小学校は若葉小学校との統合により、29年度末に閉校																							
＜夜間照明塔改修工事＞																							
老朽化により倒壊の恐れがある校庭の夜間照明塔について、平成28年度から31年度にかけて計画的な建て替えを行った。																							
平成28年度:第七小学校、西砂小学校、立川第一中学校																							
29年度:立川第二中学校																							
30年度:新生小学校、立川第四中学校、立川第七中学校、立川第九中学校																							
31年度:立川第六中学校																							

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題

<成果>

- 小学校の校庭や体育館を遊び場として開放し、合わせてスポーツ団体に小中学校の校庭や体育館を学校教育に支障のない範囲で開放したことにより、地域のスポーツ活動の拠点となることで、市民が身近な場所でスポーツに親しむ機会を提供することができた。
- 老朽化により倒壊の恐れがある校庭の夜間照明塔について、平成28年度から31年度にかけて計画的に建て替えることで、スポーツ環境を改善することができた。

<課題>

- 学校施設の利用希望団体が多いことから、空きのない状態が恒常化しており、年度途中での新規利用団体の登録が難しく、結果として利用団体が固定化している。また、学校の大規模・中規模改修が順次実施されていて、体育館や校庭の使用ができない期間が発生し、代替施設の調整も困難となっている。
- 平成31年度で緊急度の高い夜間照明塔の計画的な撤去・再設置は終了したが、今後は経過観察にしている照明塔の腐食の進行状況を把握し、計画的な撤去・再設置を検討していく。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

- 教育総務課にて、計画的に体育館の改修工事が行われた。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実
施策名	(13) 指導者の育成・確保
1. 施策の概要	
専門的な知識等を持つ指導者を確保・育成するため、周辺大学や団体と連携し、指導者研修を実施する。	
【取組事項】	
① 専門的な知識及び技術を持つ指導者を確保し育成していくため、施設・設備の整ったスポーツ活動の盛んな周辺大学や関係各課と連携し、指導者研修の実施を検討します。 ② 地域におけるスポーツ活動を推進するため、一定の研修を修了したスポーツ指導者を確保することで、競技スポーツに限らない各種スポーツに対応した指導者の提供ができるようなネットワークづくりを図ります。 ③ 健康推進課や生涯学習推進センター等と連携して、健康づくりなどの幅広い年齢層の方が気軽に取り組める運動に対応する指導者の育成・確保のしくみづくりを検討します。	
2. 施策の実績	
○ 東京女子体育大学との連携協定を結び、相互協力体制を築いた。 ○ 体育協会と連携し、平成31年度より実施している「運動指導者育成プログラム講座」を支援し、地域スポーツの推進を担う指導者育成に取り組んだ。 31年度参加人数:28名 ○ スポーツ推進委員の資質向上を図るため、内部研修を実施したほか、東京都スポーツ推進委員協議会による広域地区別研修会(第8ブロック)や課題別研修会、初級障害者スポーツ指導員養成講習会、実務研修などに参加した。 ○ 高齢福祉課や健康推進課、スポーツ振興課の3課が協力して、「ラジオ体操・みんなの体操会」及び「ラジオ体操・みんなの体操指導者講習会」を、平成27年度の特別巡回をきっかけに、新規事業として平成28年度から実施した。また、地域でのスポーツイベントにおいて正しいラジオ体操の普及を行うラジオ体操指導員の資格取得に取り組んだ。	
3. 成果と課題	
<成果> ○ 「ラジオ体操指導者講習会」を継続して行い、多くの市民が指導者資格を取得することができた。 ○ 平成31年度より体育協会が実施する「運動指導者育成プログラム講座」への補助を実施し、受講者が地域スポーツの推進を担う指導者として育成することができた。 今後は、フィジカルやメンタルの基礎を実際の指導に活かし、結果に結びつけるための現場力・応用力の習得につなげていく。	

スポーツ推進計画の総括

3. 成果と課題（続き）

＜課題＞

- 体育協会が実施する講座への支援を継続し、専門的な知識及び技術を持つ指導者を育成・確保していく必要がある。
- 国は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」に取り組んでおり、休日の部活動の段階的な地域移行を図っていることから、育成された指導者が地域で活躍するしくみづくりを関係機関と協議していく必要がある。

【参考】施策に関連した市以外の団体が実施した取組

【立川市体育協会】

- スポーツ指導者に対し、トレーニング方法・救命処置・落雷・熱中症・セクハラパワハラに関する手引書を作成し、配布した。
- 市民を対象に東京消防庁の職員を招いて、泉市民体育館にて普通救命士講習会を開催した。
- 平成27年度から5年間、ジュニア育成地域推進事業として中野ジェームズ修一氏を講師に招き、スポーツトレーニングに興味のある方を対象に、たましんRISURUホールで「フィジカルトレーニング講演」を実施した。体幹トレーニングの大切さを参加者に伝える内容となっている。
- 平成29年より中野ジェームズ修一氏を講師に招き、中高生から一般を対象に「体幹トレーニング実技講習会」を開催した。
- 少年サッカー指導者を対象に、渡辺昭彦氏（POMBA立川FCポンバチカワフットボールクラブ代表兼トレーナー）による講習会を泉市民体育館にて開催した。
- 平成31年度より日本フィジカルトレーナーとの共催で「運動指導者育成プログラム講座」を実施し、地域スポーツの推進を担う指導者育成に取り組んでいる。
- 現在、以下のとおり市内中学校の部活動外部指導員として派遣状況している。 ※は運動指導者育成プログラムの受講者
 - ・立川第一中学校・・・※陸上競技指導者、ソフトテニス指導者
 - ・立川第三中学校・・・※男子バレーボール指導者、※陸上競技指導者
 - ・立川第八中学校・・・ソフトテニス指導者

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実
施策名	(14) 情報の提供
1. 施策の概要	
広報「たちかわ」や市ホームページなど様々な媒体を活用し、スポーツ関連情報を提供する。 【取組事項】 ① 広報「たちかわ」や立川市ホームページ、立川市体育協会ホームページを活用するとともに、地域のケーブルテレビ局やFM放送局等に積極的に情報を提供します。 ② 泉・柴崎両市民体育館を管理する指定管理者と連携し、市民へのチラシ等様々な広報媒体を活用し、スポーツ関連情報を提供します。 ③ 庁内関係課で実施するスポーツ関連事業情報をわかりやすく市民へ提供するシステムを検討します。	
2. 施策の実績	
○ 広報「たちかわ」や立川市ホームページ及び立川市体育協会ホームページを活用して、市民大会の各種目の開催、各種スポーツイベント・教室の開催情報を市民に提供している。また、新規のイベントや参加者の多いイベントは、積極的にプレスリリースをしている。 ○ きらりたちかわ等、庁内の他課で発行する情報誌にスポーツ教室等の開催予定を掲載したほか、市内の施設にチラシを配布し市民等へ情報を周知した。	
3. 成果と課題	
＜成果＞ ○ 広報たちかわ、市ホームページを主な媒体として活用し、イベント情報、施設利用に関する情報を発信し、市民がスポーツに関心を持ち、始めるきっかけにつなげた。 ＜課題＞ ○ 子育て世代向け、障害者向け、男性向けなど、内容や対象によって、媒体や伝達方法を検討し、より効果的に情報を提供する必要がある。 ○ 関係団体と連携して、プロスポーツなどの観るスポーツに関する情報提供を充実し、スポーツへの興味・関心を高める必要がある。	
【参考】施策に関連した市以外の団体が実施した取組	
【体育協会】 ○ 立川市体協だより「スポーツたちかわ」及び「体協かわら版」を発行し、地区体育会等の団体の活動や市内のスポーツに関する情報提供をしている。	

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実																																																																																																										
施策名	(15) 健康づくり事業の推進																																																																																																										
1. 施策の概要																																																																																																											
スポーツは介護予防や健康増進など心身の健康づくりに効果があるため、健康づくり教室を実施する。																																																																																																											
【取組事項】																																																																																																											
① らくらく水中ウォーキング、さわやかエクササイズ、みんなでストレッチ、アクアエクササイズなど身体を動かすことの楽しさを知り、生活の中に取り入れていくことを目的とした健康づくり教室を引き続き実施します。																																																																																																											
② 市民自らが企画・運営する健康づくりのための教室の実施を支援し、スポーツに親しむ層を拡大して健康の増進を図ることを目的とする地域健康教室事業を今後も実施します。																																																																																																											
③ 市民の健康管理に対するきっかけづくりを目的に、泉・柴崎両市民体育館において同指定管理者が実施している、スポーツと健康をテーマとした医学・栄養・運動講座を引き続き実施します。																																																																																																											
④ 市内の各種団体や企業等と連携し、「体力年齢測定会」の事業拡充も含め、地域資源の有効活用に向けたしくみづくりに取り組みます。																																																																																																											
2. 施策の実績																																																																																																											
<table><tr><th>番号</th><th>事業名</th><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>平成31年度</th></tr><tr><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">みんなでストレッチ教室 (再掲)</td><td>泉市民体育館</td><td>12,745(198回)</td><td>12,783(190回)</td><td>11,681(193回)</td><td>11,329(186回)</td><td>8,048(174回)</td></tr><tr><td>柴崎市民体育館</td><td>2,167(44回)</td><td>2,011(43回)</td><td>2,098(40回)</td><td>1,983(41回)</td><td>1,698(40回)</td></tr><tr><td rowspan="2">②</td><td rowspan="2">アクアエクササイズ教室</td><td>泉市民体育館</td><td>1,937(84回)</td><td>1,575(81回)</td><td>1,127(80回)</td><td>1,083(80回)</td><td>1,135(62回)</td></tr><tr><td>柴崎市民体育館</td><td>2,975(204回)</td><td>3,787(178回)</td><td>4,180(175回)</td><td>3,973(180回)</td><td>3,926(168回)</td></tr><tr><td>③</td><td>軽体操教室(再掲)</td><td>柴崎市民体育館</td><td>2,093(40回)</td><td>1,927(42回)</td><td>2,197(42回)</td><td>2,633(43回)</td><td>1,927(38回)</td></tr><tr><td>④</td><td colspan="2">ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)</td><td>1,000</td><td>277</td><td>250</td><td>175</td><td>140</td></tr><tr><td>⑤</td><td colspan="2">ラジオ体操講習会(再掲)</td><td>-</td><td>66</td><td>57</td><td>32</td><td>47</td></tr><tr><td>⑥</td><td colspan="2">体力年齢測定会(再掲)</td><td>38</td><td>47</td><td>52</td><td>31</td><td>22</td></tr><tr><td>⑦</td><td colspan="2">筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室(再掲)</td><td>208</td><td>192</td><td>190</td><td>186</td><td>181</td></tr><tr><td>⑧</td><td colspan="2">小学生姿勢教室(再掲)</td><td>-</td><td>61</td><td>58</td><td>139</td><td>149</td></tr><tr><td>⑨</td><td colspan="2">地域参加型機能訓練「ラフ&タフ体操教室」</td><td>1,596</td><td>1,222</td><td>900</td><td>964</td><td>941</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">合 計</td><td>23,759</td><td>23,605</td><td>22,483</td><td>22,321</td><td>18,027</td></tr></table>								番号	事業名		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	①	みんなでストレッチ教室 (再掲)	泉市民体育館	12,745(198回)	12,783(190回)	11,681(193回)	11,329(186回)	8,048(174回)	柴崎市民体育館	2,167(44回)	2,011(43回)	2,098(40回)	1,983(41回)	1,698(40回)	②	アクアエクササイズ教室	泉市民体育館	1,937(84回)	1,575(81回)	1,127(80回)	1,083(80回)	1,135(62回)	柴崎市民体育館	2,975(204回)	3,787(178回)	4,180(175回)	3,973(180回)	3,926(168回)	③	軽体操教室(再掲)	柴崎市民体育館	2,093(40回)	1,927(42回)	2,197(42回)	2,633(43回)	1,927(38回)	④	ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)		1,000	277	250	175	140	⑤	ラジオ体操講習会(再掲)		-	66	57	32	47	⑥	体力年齢測定会(再掲)		38	47	52	31	22	⑦	筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室(再掲)		208	192	190	186	181	⑧	小学生姿勢教室(再掲)		-	61	58	139	149	⑨	地域参加型機能訓練「ラフ&タフ体操教室」		1,596	1,222	900	964	941		合 計		23,759	23,605	22,483	22,321	18,027
番号	事業名		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度																																																																																																				
①	みんなでストレッチ教室 (再掲)	泉市民体育館	12,745(198回)	12,783(190回)	11,681(193回)	11,329(186回)	8,048(174回)																																																																																																				
		柴崎市民体育館	2,167(44回)	2,011(43回)	2,098(40回)	1,983(41回)	1,698(40回)																																																																																																				
②	アクアエクササイズ教室	泉市民体育館	1,937(84回)	1,575(81回)	1,127(80回)	1,083(80回)	1,135(62回)																																																																																																				
		柴崎市民体育館	2,975(204回)	3,787(178回)	4,180(175回)	3,973(180回)	3,926(168回)																																																																																																				
③	軽体操教室(再掲)	柴崎市民体育館	2,093(40回)	1,927(42回)	2,197(42回)	2,633(43回)	1,927(38回)																																																																																																				
④	ラジオ体操・みんなの体操会(再掲)		1,000	277	250	175	140																																																																																																				
⑤	ラジオ体操講習会(再掲)		-	66	57	32	47																																																																																																				
⑥	体力年齢測定会(再掲)		38	47	52	31	22																																																																																																				
⑦	筋力アップ貯筋(体力アップ)体操教室(再掲)		208	192	190	186	181																																																																																																				
⑧	小学生姿勢教室(再掲)		-	61	58	139	149																																																																																																				
⑨	地域参加型機能訓練「ラフ&タフ体操教室」		1,596	1,222	900	964	941																																																																																																				
	合 計		23,759	23,605	22,483	22,321	18,027																																																																																																				

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

- ①～③ 泉・柴崎両市民体育館において、「みんなでストレッチ教室」や「アクアエクササイズ教室」、「軽体操教室」を継続して実施し、多くの参加があった。
- ④～⑥ 幅広い年齢層でスポーツを楽しめる「ラジオ体操・みんなの体操会」や「ラジオ体操講習会」、「体力年齢測定会」を実施した。
- ⑦ 高齢者の健康維持のために、体力アップ体操教室（平成29年度までは筋力アップ貯筋体操教室）を実施している。
- ⑧ 平成28年度より新規事業として小学生姿勢教室を実施し、親子で姿勢が悪いことの弊害を学び、良い姿勢を保つための体操などを学んでいる。
- ⑨ 健康推進課がラフ＆タフ体操教室のほか、地域健康づくりグループ支援事業、健康づくり推進員によるウォーキングイベント、立川健康ポイント事業等を実施した。
（その他）
- 福祉総務課（福祉会館）にて、シルバー大学事業を実施し、各種スポーツに関する講座を開設した。
- 生涯学習推進センター（地域学習館・学習等供用施設）にて、寿教室事業を実施し、健康体操やフォークダンス等の講座を開設した。

3. 成果と課題

<成果>

- 健康維持、基礎体力の維持・向上も目的とした教室、イベントを実施し、スポーツを通して自身の健康の関心を高め、健康維持の方法を学ぶ機会を、さまざまな形で伝えることができた。
- 庁内の関係課で「ラジオ体操・みんなの体操会」を実施し、参加者に体を動かす機会を提供し、健康づくりに役立てることができた。

<課題>

- 目的や対象は異なるものの、庁内の各課で健康づくり事業が行われていることから、関係各課で事業連携を強化し、効果的な事業運営を進めていく必要がある。

[参考] 施策に関連した市以外の団体が実施した取組

- 毎年9月に立川市老人クラブ連合会の主催で体力測定会が泉市民体育館で開催されている。

スポーツ推進計画の総括

基本方針	Ⅲ スポーツ環境の充実					
施策名	(16) オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とするスポーツの推進					
1. 施策の概要						
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてスポーツへの関心が高まることから、スポーツへの気運を持続させる取り組みを行う。						
【取組事項】						
① 東京オリンピック開催を契機とするスポーツへの関心の高まりをとらえて、子どもからお年寄りまでスポーツに親しむ市民を増加させ、目標に掲げるスポーツ実施率の向上に向け取組を展開します。						
② 立川市の持つ都市特性を活かして、東京開催のホスト都市としての役割を果たすことが重要です。世界中から選手はもとより、日本を訪れる外国人の方が増加します。ホスト都市の一翼を担う立川市としては、東京都や近隣市、さらに大学等とも連携してスポーツ関係者はもとより多くの市民との協働により多様な取組を展開していきます。						
③ 未来を担う子どもたちの夢と希望につながる開催となるよう、準備の段階から学校等と連携してオリンピック教育に取り組むことはもとより、開催後にもスポーツが持つ多様性を活かし、教育の様々な場面で子供の成長に結びつけるよう取り組んでいきます。						
④ パラリンピックの開催を契機に、障害者スポーツの振興ならびに、その周知を図る最大の機会とするために取り組みます。特に子ども達には、障害者の方々への理解を図る観点からも福祉教育にも結びつく学びの機会としていきます。						
2. 施策の実績						
オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする事業やイベント						
番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①	アスリートスポーツ教室(再掲)	-	-	63	138	149
②	泉市民体育館まつり(再掲)	-	289	461	704	401
③	ニュースポーツ体験会(再掲)	-	-	-	128	161
④	ブラインドサッカー体験会(再掲)	154	867	767	600	364
⑤	スポーツ推進委員主催ボッチャ体験会(再掲)	51	33	29	27	42
⑥	チャレンジスポーツ教室(再掲)	129	597	665	723	514
⑦	障害者スポーツイベント(再掲)	81	211	224	167	97
⑧	ジャパン近代3種シリーズ立川大会	-	-	-	125 (2018第7戦)	146 (2019第3戦)
⑨	第6回近代3種日本選手権大会兼 第13回JOCジュニアオリンピックカップ	-	-	-	100	-
	合 計	415	1,997	2,209	2,712	1,874

スポーツ推進計画の総括

2. 施策の実績（続き）

- ①～③ アスリートスポーツ教室や泉市民体育館まつり、ニュースポーツ体験会を開催し、スポーツへの関心を高めるとともに、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境を用意し、スポーツ実施率の向上を図った。
- ④～⑦ 施策(4)障害者のスポーツの推進を参照。
- ⑧ 平成30年度より立川市で開催されている。
- ⑨ 平成30年度に立川市で開催された(31年度は他市で開催された)。
- (その他)
- 各学校でオリンピック教育の推進として、オリンピックを招いた交流や講演会、実技指導などを行ったほか、東京女子体育大学に依頼しオリンピックを派遣していただいた。また、パラリンピック教育を推進し、パラリンピアンとの交流や障害者スポーツや車いすの体験等を行った。
- 令和元年にベラルーシ共和国新体操ナショナルチームが事前キャンプを実施し、新体操交流会を市民に公開して演技が披露された。また、本市とゆかりのある、リオデジャネイロオリンピックの近代五種に出場した選手の応援と交流を続けている。

3. 成果と課題

<成果>

- オリンピアンをはじめとするトップアスリートによる教室や講演会等を実施したことで、オリンピックへ向けた気運醸成とともに、市民の競技スポーツへの関心を高めることができた。
- パラリンピック競技種目であるボッチャなどの教室や競技体験を実施するとともに、市内小中学校の児童・生徒とパラアスリートとの交流を通して、パラリンピック競技の認知度の向上や障害者理解を促進することができた。
- パラリンピック競技のボッチャ、五人制サッカー(ブラインドサッカー)については、体験や教室の機会を多く設けることができ、特にボッチャについては、市民の競技者が増え、大会を開催するなど、競技の普及を推進することができた。

<課題>

- 大会までに築いてきたスポーツへの関心の高まりや、障害者スポーツの振興などを大会終了後もいかに持続させ、レガシーとして残していくかが課題となる。

[参考]施策に関連した市以外の団体が実施した取組

特になし